

様式 2

平成 27 年度 自己評価表

鳥取県立岩美高等学校

中長期
目標
(学校ビジョン)
岩美高生としての誇りと自覚を持ち、何事にも「誠実」に対応でき、他者と「協働」して物事に取り組み、夢に向かって「果敢」に挑戦する人間を育成する。

今年度の
重点目標

1. キャリア教育を推進し、自らの将来について主体的に考える力を養う。
2. 部活動を振興し、健康で心身のバランスのとれた人間の育成に努める。
3. 生徒が主体的な学びに喜びを見出し、解決する力、伝える力を身に付けさせる。
4. 地域と連携した学校づくりに向けて、一層の充実に努める。

年 度 当 初				評 価 結 果 (10)月			総合	
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策	評価
1. 進路指導の充実	○キャリア教育の充実	○自己肯定感が低く自分に自信が持てない生徒が多い。自己の進路について積極的に関わろうとする意欲に乏しい。	○自己を理解し、自らの将来について主体的に考える力を身につけている。	○「ジボーク2」や「総合的な学習の時間」を活用し、基礎的汎用的能力の育成を目安としたキャリア教育に取り組む。	5月末キャリア教育アンケートにより自分の将来を具体的に考える割合が増えているが、自己肯定感は低い。様々の取組が自信につながっていない。	C	インターシップ前のアンケートであり、さらに今後の経過をみる。1年においても調査を行い、指導の意識を高める。	
	○進路実現のための体系的な指導方法の充実	○進路実現100%を裏打する安定した指導方法が確立・定着しつつある。	○進路実現に向けて適切な時期に進路学習が行われ、進路実現に結びついている	○進路面談や進路セミナーなどの進路学習を各学年団との連携により強化し、3年間を見通した系統的な指導方法へと深化させる。 ○個別面談の充実と1クラス複数体制の確立。	学年が上がる程生徒保護者とも本校の進路学習が役に立っていると感じている。約7割の教員が計画的に進路指導ができていていると感じている。進路実現の結果はこれからである。	B	1,2年次での進路指導で、進路ノートやキャリアファイルを活用し、進路に対する意識を高める。	
2. 生徒指導の充実	○基本的な生活習慣とマナーの定着	○頭髪服装再検査者数は減少しているが、0にはならない。再検査者数は下学年で多い傾向がある。	○挨拶、返事、服装等のマナーと基本的な生活習慣が身に付いており、規範意識を持っている。 ○再検査者数は、1クラス平均3人以内にする。	○全校朝会や頭髪服装検査の実施による校則の徹底指導と、全職員による日常的なきめ細やかな指導を充実させる。	挨拶、服装、その他校則やマナーを守ることに付いて、おおよそ身につけていると感じられるが、自身が見本となる意識はやや低くなる。再検査者数は、クラス平均3人以内は達成していない。	C	規範意識を持った生活が行われるよう、教員側も高い意識を持って指導にあたる。	
	○生徒会活動の充実	○部活動加入率は全校で99.1%で、ほぼ達成できている。	○部活動全員加入を継続し部活動をとおして忍耐力や礼儀の向上につながっている。 ○生徒の自主的なボランティア活動や美化活動が行われている。	○部活動全員加入を推進する。 ○生徒主体のボランティア活動や美化活動を推進する。	○部活動は9月時点で全員加入を達成している。アンケートにより9割を超える生徒が「部活動に一生懸命取り組んでいる」について、8割を超える保護者、教職員が「部活動をとおして人間的に成長している」について「そう思う」「やや思う」と答えている。	B	部活動が主体となって、近隣および登下校時に使う道路の清掃、雪かきなどを行うよう取り組む。	
	○豊かな人間関係づくりの推進。	○携帯電話等による小さなトラブルが起きている。友人とのメールのやり取りで不安感を感じる生徒も多い。	○携帯電話等に頼らず自分で考え、直接話をする事の重要性を知っている。 ○携帯電話などの使用マナーが身についている。	○生徒会主催のケータイ・インターネットマナー研修会等の取組を充実させる。	携帯電話等に係るトラブルにはすぐに対応し、重大な問題にはなっていない。アンケートではマナーを守り直接会話することを大切にしているについて8割を超える生徒保護者が「やや思う」と答えている。	B	生活満足度アンケートやいじめに関するアンケートの実施後、状況を丁寧に検証し、啓発に取り組む。	
3. 学習指導の充実	○学習指導の改善	○生徒の実態を踏まえた授業の工夫がなされているが、苦手意識がぬぐいきれず学ぶ意欲に乏しい生徒が多い。	○授業をとおして生徒自身が成長していることを実感し、学ぶ喜びを感じている。	○生徒が主体的・協働的に学ぶ授業の実践を促進する。 ○公開授業や研究授業月間を活用して、学習指導のあり方についての情報を共有する。	アクティブラーニング(AL)の実践を促進させつつ、公開授業の実施もあった。先進校の公開授業に参加し、職員会議で共有することができた。7割を超える生徒が、学ぶことが楽しいと感じる授業があると答えている。ALが広がりつつある。	C	後期の公開授業月間では、一人一回の公開授業が実施できるようにする。	
	○基礎学力の向上	○1ツツ検定初級合格率は1年で4教科中3教科が50%未満である。 ○家庭学習時間は平日30分未満が58%であり家庭学習は習慣になっていない。	○1ツツ検定初級合格者を1年未で40%、2年未で60%に近づけ、3年未で100%を達成する。 ○1日1時間以上の家庭学習が習慣化されている。	○リスト学習・1ツツ検定の進捗状況を検証し、活用を促進する。 ○学年団と教科担当との連携を密にする。	初級の合格率は、1,2年数学や、2,3年国語では例年より高い割合で合格している。3年国語初級は100%を達成している。 家庭学習時間は、1日平均で53.3分であるが、クラスによるばらつきが大きい。	C	家庭学習の習慣化と1ツツ検定の合格に向けて、学年団で連携して取り組む。	
4. 開かれた学校づくりの充実	○地域と連携した学校づくりの推進	○「ジボーク1」での学習をとおして、岩美町の関係者や専門家の協力を得た学習が展開できた。生徒の側からの働きかけや発信は不十分である。	○文部科学省指定の研究活動をとおして、地域と連携した学習活動を開発し、地域に密着した学校としての学習カリキュラムを編成する。	○「ジボーク2」での活動において、地域連携の方策を研究する。 ○ジオ研究推進委員会や研究開発運営指導委員会をとおして、学校全体および専門家や岩美町の方からの意見を活用する。	岩美高校魅力化コーディネーターが加わり、地域と連携した取り組みの計画が進んでいる。「ジボーク2」での活動のテーマは決まったが、実際の活動はこれからである。生徒が主体となって活動する取り組みにしなければならない。	C	地域と連携した活動を、本校の教育活動の一つとして位置付けられるよう、「ジボーク2」やその他の科目、部活動等多方面からも取り組む。	

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し

[100%]

[80%程度]

[60%程度]

[40%程度]

[30%以下]